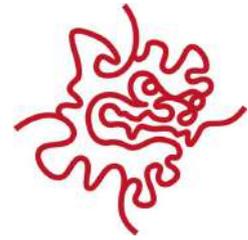


この記事は生徒が作成しました！

# Innovative Science Festa 2026



2026/01/26～28(月～水)  
@ 沖縄科学技術大学院大学(OIST)

私達は沖縄科学技術大学院大学(OIST)にて行われた、Innovative Science Festa 2026 (ISF)に参加してきました。OISTでは各研究チームが生徒やOISTの学生に対して英語による口頭発表を行いました。

またそのあと、球陽高校に場所を移して行われた交流会では、セミナーハウスで生徒間による発表を行いました。北海道や大阪、沖縄などの高校から全33チームが参加しました。OISTでの英語による質疑応答は初めての試みで戸惑いがありましたが、最善を尽くして取り組んで来ました。



沖縄先端科学技術大学(OIST)



球陽高校での発表の様子

## ～沖縄での学び～

まず研究内容をまとめて発表準備をする中で、自分たちの研究で辻褄が合っていないことや、実験の試行回数が足りていなかったことなどが明らかになっていきました。そのたびに班員で話し合い、追加して実験を行うなどし、自分たちの実験の正当性を導きました。個々人でも研究への理解を深め、いかなる質問にも対応できるように準備して発表に臨みました。

OISTでの発表は分野ごとに、各グループ内でポスターセッションを行いました。OISTの学生も見学に来ていたため、英語での発表となりました。英語での質問は聞き取れない部分があったり、予想できていなかった新たな視点からの質問が来たりと対応に悩む場面もありましたが、臨機応変に対応することができました。この発表・フィードバックを通じて自分たちの研究をより深める経験が得られたと思います。

その後、球陽高校にて分野や学校に関係なく互いの発表を聞き合いました。自分の研究内容とは関連性のない研究でも、それぞれのクオリティーの高さに圧倒されました。同じSSHの高校であっても、興味を持つ分野や研究方法には大きな違いがありましたが、一人ひとりが真剣に自身の研究と向き合っている姿はとても印象的でした。厚木高校以外でも、同じように取り組んでいる仲間がいることを体感できたのはとても良い経験だったと思います。その後、球陽高校の方々がバーベキューをする機会を設けてくださり、その中で他県の高校生と交流する機会がありました。北海道から沖縄まで様々な地域の学生と方言や文化の違いなどを話し、仲を深めることができました。

## ~3日間にしたこと~

### ○1日目

朝9時ごろ、羽田空港を出発し、昼ごろに那覇空港に到着しました。到着後は各班で自由に行動しました。国際通りで昼食を食べ、その後アメリカンビレッジに移動して観光を楽しみました。アメリカンビレッジで夕食を食べた後、沖縄県立球陽高等学校にお邪魔しました。



球陽高校には宿泊できる施設があり、そちらで1日目は厚木高校生のみで宿泊させていただきました。宿泊施設では2日目の発表の準備や練習をしたあと、カードゲームをしたりお菓子を食べたりして盛り上がりました。

### ○2日目

沖縄科学技術大学院大学(OIST)を訪れ、研究分野ごとのグループに分かれて英語でのポスター発表を行いました。現地の大学院生たちも発表を聞いてくださり、様々な質問やアドバイスをしてくださいました。また、全国各地から集まった他校生たちの発表を聞き、自分たちにはなかった視点や考え方を学ぶことができました。



発表が終わった後、OISTの施設を見学しました。OIST内はとても広く、研究のための施設だけでなく、生徒が勉強できる場や豊かな自然を楽しめる場所などもありました。

その後、再び球陽高校に移動しました。2日目は他の高校の生徒たちも集まり、球陽高校の施設でアイスブレイクや日本語でのポスター発表を行い、生徒同士の仲を深めることができました。





夕方には球陽高校でバーベキューを行いました。他県の生徒たちと文化の違いなどを語り合ったり、クイズを出し合ったりして仲をより一層深めました。その後は帰宅する生徒たちとお別れをし、宿泊する生徒たちでお菓子を買いに近くのお店に行ったりしました。夜は皆で勉強を教え合ったり、ラウンジに集まってカードゲームをしたりしました。談笑は深夜まで続き、とても思い出に残る有意義な時間となりました。

## ○3日目

朝は近辺の沖縄そばのお店に行き、みんなで朝食を食べました。その後琉球大学に移動し、講義を聞かせていただいたり、研究施設を見学したりしました。魚をよりコストを抑えて育てたり、成長速度を早めたりする研究について教えていただきました。



他県の生徒たちとお別れをしました。仲を深めてすぐの別れは私たちにとってとても寂しいものですが、いつかまた会おうと約束を交わし、それぞれの方向へと旅立って行きました。発表や見学を通して学んだことに加えて、仲間との時間は良い思い出になり、とても有意義な3日間を過ごすことができました。

～以下、引率教員Mより～

英語での発表および質疑応答ということで難易度が高いかと思われましたが、今回2つの班が参加を希望してくれました。1つの班はすでにICRP(立命館高校さん主催の国際共同研究プロジェクト)に参加し、英語で研究内容をまとめ、発表まで経験していたため、今回まさに適任の班でした。もう一方の班も、限られた時間の中で熱心に準備を進め、堂々とした素晴らしい発表を披露してくれました。厚高生の高い能力や真摯に取り組む姿勢には、あらためて感心させられます。

このISFは、OISTの外国人大学院生の皆さんに発表を見ていただき、質疑応答とコメントを受けられるだけでなく、OISTの見学、またその前後のイベントとして琉球大学の見学、さらに全国各地から集まった意識の高いSSH指定校の高校生同士の交流ができるという、大変有意義なイベントです。

ISFを主催された高槻高校さん、宿泊および交流会を企画・運営してくださった球陽高校さん、そして関係者の皆さまに心より感謝申し上げます。

来年度もぜひ参加したいと考えております。(これを読んでいる厚高1年生のみなさん、ぜひ挑戦してみてください！)